

イザヤが活躍した時代の四人の王に関する聖句



イザヤ書は、著者アモツの子イザヤが、ユダとエルサレムについて見た幻で、ユダの王である**①ウ ज्या**（＝**アザルヤ**）、**②ヨタム**、**③アハズ**、**④ヒゼキヤ**の時代について記している（イザヤ1：1）。これら四人の王について記された主な聖句を抜粋、列挙した。

▶列王記下

14:21 ユダ（→南王国）のすべての民は当時十六歳であった**①アザルヤ**（本名で「主は助ける」という意味、別称：**ウ ज्या**→「主は力」という意味、在位：781～740年）を選び、父アマツヤ（→ユダの第9代の王、在位：796～766年、29年間の内、子の**アザルヤ**との共同統治が長かった。アマツヤがイスラエルに捕えられていた間、**アザルヤ**が父アマツヤに代わって国を統治した。アマツヤが実際に統治したのはBC781年までと言われている。）の代わりに王とした。

15:01 イスラエル（→北王国）の王ヤロブアム（→イスラエル第13代の王ヤロブアム二世）の治世（在位：783～743年、父王ヨアシュとの11年間の共同統治がある。）第二十七年に、ユダの王、アマツヤの子**①アザルヤ**が王となった。15:02 彼は十六歳で王となり、五十二年間（→781-740=41、41+11=52年）エルサレムで王位にあった。その母は名をエコルヤといい、エルサレムの出身であった。15:03 彼は、父アマツヤが行ったように、主の目にかなう正しいことをことごとく行った。150:4 ただ（丘の上にある異教の神々を礼拝する）聖なる高台は取り除かず、民は依然として聖なる高台でいけにえを屠り、香をたいていた。

15:05 主が（**アザルヤ**）王を打たれたので、王は死ぬ日まで重い皮膚病（規定の病：聖書協会共同訳）に悩まされ、隔離された家に住んだ。王子**②ヨタム**が王宮を取りしきり、国の民を治めた。

15:06 **①アザルヤ**の他の事績、彼の行ったすべての事は、『ユダの王の歴代誌』に記されている。

15:07 **①アザルヤ**は先祖と共に眠りにつき、ダビデの町に先祖と共に葬られた。その子**②ヨタム**が**①アザルヤ**に代わって王となった。

15:08 ユダの王**①アザルヤ**の治世第三十八年に、ヤロブアム（→イスラエル第13代の王ヤロブアム二世）の子ゼカルヤがサマリアでイスラエルの王となり、六か月間王位にあった。

15:13 ユダの王**①ウ ज्या**（＝**アザルヤ**、この節のみ、「**ウ ज्या**」）の治世第三十九年に、（ヨルダン川東岸の町）ヤベシュ（に住むゼカリヤの）の子シャルムが王となり、一か月間サマリアで王位にあった。

15:17 ユダの王**①アザルヤ**の治世第三十九年に、ガディの子メナヘムがイスラエルの王となり、サマリアで十年間王位にあった。

15:23 ユダの王**①アザルヤ**の治世第五十年に、メナヘムの子ペカフヤがサマリアでイスラエルの王となり、二年間王位にあった。

15:27 ユダの王**①アザルヤ**の治世第五十二年に、（イスラエル軍の最高司令官）レマルヤの子ペカがサマリアでイスラエルの王となり、二十年間王位にあった。

15:30 エラの子ホシェア（→イスラエル、北王国の第19代、最後の王）は（イスラエル軍の最高司令官）レマルヤの子ペカ（→イスラエル、北王国の第18代の王）に対して謀反を起こし、彼を打ち殺し、代わって王位についた。それは**①ウ ज्या**の子**②ヨタム**の治世（740～736年→**㊦年代に計算上不合があるのは、共同統治期間があるため、結果として治世年代には諸説ある。以下、同じ。**）第二十年（→列王記下15：33から、ユダの第11代の王**ヨタム**は16年治めたとされているが、その内の何年かはアッシリアの統治下にあった。）のことであった。

15:32 イスラエルの王、レマルヤの子ペカの治世（737～732年）第二年に、ユダの王**①ウ ज्या**の子**②ヨタム**が王となった。

15:34 彼は、父**①ウ ज्या**が行ったように、主の目にかなう正しいことをことごとく行った。

15:36 **②ヨタム**の他の事績、彼の行った事は、『ユダの王の歴代誌』に記されている。

15:38 **②ヨタム**は先祖と共に眠りにつき、父祖ダビデの町に先祖と共に葬られた。その子**③アハズ**（＝**アハズヤ**→ユダ第12代の王、治世：736～716年）が**②ヨタム**に代わって王となった。

16:01 レマルヤの子ペカの治世第十七年に、ユダの王**②ヨタム**の子**③アハズ**が王となった。

16:02 **③アハズ**は二十歳で王となり、十六年間（→16年の内、何年かはアッシリアの統治下にあった。共同統治期間などのため、治世年代には諸説ある。）エルサレムで王位にあった。彼は父祖ダビデと異なり、自分の神、主の目にかなう正しいことを行わなかった。

16:05 そのころ、アラムの王レツィンとイスラエルの王、レマルヤの子ペカがエルサレムを攻めようとして上って来た（→シリア・エフライム戦争）。彼らは**③アハズ**を包囲したが、戦いを仕掛けることができなかった。

→**シリア・エフライム戦争**（BC735～732年）

アラム・ダマスコ（アラムの頭はダマスコ、ダマスコの頭はレツィン＝イザヤ6:8）と北イスラエル王国（主要部族の名を取ってエフライム）の連合が、ユダ王国およびアッシリアと戦い、その結果、アッシリアの覇権の確立と、アラム・ダマスコの消滅がもたらされた（列王記下15:27～16:20、歴代誌下28章）。

アッシリア帝国のティグラト・ピレセル三世は、世界帝国の形成を画策し、シリア・パレスチナに次第に勢力を伸ばしていた。この危機に対してシリアと北イスラエル王国（主要部族の名を取ってエフライム）は、連合して抵抗しようとし、この連合にユダも取り込もうとした。しかしユダの王**アハズ**は、これを拒絶したために、連合軍がエルサレムに攻めて来た（→シリア・エフライム戦争）。その時、アハズ王は、「静かにして恐れるな」（イザヤ書7:4）というイザヤの勧告に従わずに、アッシリアに援助を求め（→敵の敵は味方）、ティグラト・ピレセルに神殿と王宮の銀と金を贈った（列王記下16:7～9）。なお、「静か」（ルーへ）という言葉は、神の現臨の中で神に信頼することによって得られる概念である。アッシリアはただちに援軍してユダを救った（同16:9）。しかしこのことは、ユダ王国がアッシリアの属国にされたことを意味する。アハズは、自国の危機を救ってくれたアッシリアのティグラト・ピレセルに敬意を表するためにダマスコ（シリアの首都）に行った時、そこにあったダマスコの神の祭壇の見取り図とその詳しい作り方の説明書を、エルサレムの大祭司ウリヤに送って、アッシリア王のために、自国の神殿の中にダマスコの祭壇を建ててしまう過ちを犯してしまった（列王記下16:10～18）。イザヤはこのようなことなど（アッシリア捕囚）を予測して、アッシリアに援助を求めないようと、アハズ王に忠告したのである。

16:07 **③アハズ**はアッシリアの王ティグラト・ピレセル（Tiglath Pileser III、在位：BC744～727、アッシリアを無敵の大国にし、中近東地域の覇者であった）に使者を遣わして言わせた。「わたしはあなたの僕、あなたの子です。どうか上って来て、わたしに立ち向かうアラムの王とイスラエルの王の手から、わたしを救い出してください。」

16:08 **③アハズ**はまた主の神殿と王宮の宝物庫にある銀と金を取り出し、アッシリアの王（16:07ティグラト・ピレセル）に贈り物として送った。

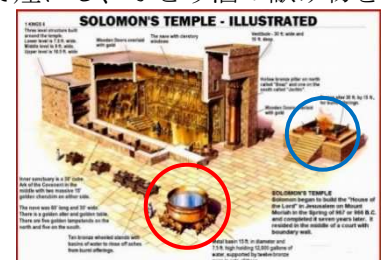
16:10 **③アハズ**王は、アッシリアの王ティグラト・ピレセルに会おうとしてダマスコに行き、ダマスコにある祭壇を見た。**③アハズ**王が祭司ウリヤにその祭壇の見取り図とその詳しい作り方の説明書を送ったので、

16:11 祭司ウリヤは**③アハズ**王がダマスコから送って来たものそっくりに祭壇を築いた。しかも祭司ウリヤは王がダマスコから帰って来るまでにそれを仕上げた。

16:15 **③アハズ**王は祭司ウリヤにこう命じた。「この大きな祭壇（→16:14 青銅の祭壇：○部分≠神殿の中にある金の祭壇）の上で、朝の焼き尽くす献げ物と夕べの穀物の献げ物、王の焼き尽くす献げ物と穀物の献げ物、すべての国の民の焼き尽くす献げ物と穀物の献げ物を燃やして煙にし、ぶどう酒の献げ物を注げ。また焼き尽くす献げ物の血とほかの献げ物の血をすべてこの祭壇に振りかけよ。あの青銅の祭壇はわたしが伺いを立てるのに用いる。」

16:16 祭司ウリヤはすべて**③アハズ**王が命じたとおりに行った。

16:17 **③アハズ**王は台車の鏡板を切り離し、台車の上から洗盤を取り外し、また「海」（うみ→大きな水盤のような物で、清めの儀式のために祭司が使った。○部分→列王記上7:23～26、歴代誌下4:2～6）をその支



えになっていた青銅の牛の上から降ろし、敷石の上に置いた。

16:19 ③アハズの行った他の事績は、『ユダの王の歴代誌』に記されている。

16:20 ③アハズは先祖と共に眠りにつき、(エルサレム神殿の南にある)ダビデの町に先祖と共に葬られた(→アハズは王の墓には葬られなかったとも言われる(歴代誌下 28:27))。その子④ヒゼキヤが③アハズに代わって王となった。

18:01 イスラエルの王、エラの子ホシェアの治世(732~723年)第三年に、ユダの王③アハズの子④ヒゼキヤが王となった。

18:09 ④ヒゼキヤ王の治世(716~687年)第四年、イスラエルの王、エラの子ホシェアの治世第七年に、アッシリアの王シャルマナサルがサマリアに攻め上って来て(BC722)、これを包囲し、

18:10 三年後に占領した。サマリアが占領されたのは、④ヒゼキヤの治世第六年、イスラエルの王ホシェアの第九年であった。

18:13 ④ヒゼキヤ王の治世第十四年に、アッシリアの王センナケリブが攻め上り、ユダの砦の町をことごとく占領した(BC701)。

18:14 ユダの王④ヒゼキヤは、(エルサレムの南西約45kmの)ラキシユにいるアッシリアの王に人を遣わし、「わたしは過ちを犯しました。どうかわたしのところから引き揚げてください。わたしは何を課せられても、御意向に沿う覚悟をしています」と言わせた。アッシリアの王はユダの王④ヒゼキヤに銀三百キカル(1キカル≒34.2kg)と金三十キカルを課した。

18:15 ④ヒゼキヤは主の神殿と王宮の宝物庫にあったすべての銀を贈った。

18:16 またこのときユダの王である④ヒゼキヤは、自分が金で覆った主の神殿の扉と柱を切り取り、アッシリアの王に贈った。

18:17 アッシリアの王は、(エルサレムの南西約45kmの)ラキシユからタルタン(→軍総司令)、ラブ・サリス(→宦官長)およびラブ・シャケ(→献酌長)を大軍と共に④ヒゼキヤ王のいるエルサレムに遣わした。彼らはエルサレムに上って来た。彼らは上って来て、布さらしの野に至る大通りに沿って上の貯水池から来る水路の傍らに立ち止まった。

18:22 お前たちは、『我々は我々の神、主に依り頼む』と言っているが、④ヒゼキヤはユダとエルサレムに向かい、『エルサレムにあるこの祭壇の前で礼拝せよ』と言って、その主の聖なる高台と祭壇を取り除いたのではなかったか。

19:01 ④ヒゼキヤ王はこれを聞くと衣を裂き、粗布を身にまとって主の神殿に行った。

19:14 ④ヒゼキヤはこの手紙を使者の手から受け取って読むと、主の神殿に上って行った。④ヒゼキヤはそれを主の前に広げ、19:15 主の前で祈った。「ケルビムの上に座しておられるイスラエルの神、主よ。あなただけが地上のすべての王国の神であり、あなたこそ天と地をお造りになった方です。19:16 主よ、耳を傾けて聞いてください。主よ、目を開いて御覧ください。生ける神をののしるために人を遣わしてきたセンナケリブの言葉を聞いてください。19:17 主よ、確かにアッシリアの王たちは諸国とその国土を荒らし、19:18 その神々を火に投げ込みましたが、それらは神ではなく、木や石であって、人間が手で造ったものにすぎません。彼らはこれを滅ぼしてしまいました。19:19 わたしたちの神、主よ、どうか今わたしたちを彼の手から救い、地上のすべての王国が、あなただけが主なる神であることを知るに至らせてください。」

19:20 アモツの子イザヤは、④ヒゼキヤに人を遣わして言った。「イスラエルの神、主はこう言われる。『アッシリアの王センナケリブのことであなたがわたしにささげた祈りをわたしは聞いた。』

20:01 そのころ、④ヒゼキヤは死の病にかかった。預言者、アモツの子イザヤが訪ねて来て、「主はこう言われる。『あなたは死ぬことになっていて、命はないのだから、家族に遺言をしなさい』」と言った。

20:02 ④ヒゼキヤは顔を壁に向けて、主にこう祈った。

20:03 「ああ、主よ、わたしがまことを尽くし、ひたむきな心をもって御前を歩み、御目にかなう善いことを行って来たことを思い起こしてください。」こう言って、④ヒゼキヤは涙を流して大いに泣いた。

20:04 イザヤが中庭を出ないうちに、主の言葉が彼に臨んだ。

20:05 「わが民の君主④ヒゼキヤのもとに戻って言いなさい。『あなたの父祖ダビデの神、主はこう言わ

れる。わたしはあなたの祈りを聞き、涙を見た。見よ、わたしはあなたをいやし、三日目にあなたは主の神殿に上れるだろう。

20:07 イザヤが、「干しいちじくを取って来るように」と言うので、人々がそれを取って来て患部に当てると、**④ヒゼキヤ**は回復した。

20:08 **④ヒゼキヤ**はイザヤに言った。「主がわたしをいやされ、わたしが三日目に主の神殿に上れることを示すしるしは何でしょうか。」

20:10 **④ヒゼキヤ**は答えた。「影が十度伸びるのは容易なことです。むしろ影を十度後戻りさせてください。」

20:12 そのころ、バビロンの王、バルアダンの子メロダク・バルアダンは、**④ヒゼキヤ**が病気であるということを知り、**④ヒゼキヤ**に手紙と贈り物を送って来た。

20:13 **④ヒゼキヤ**は使者たちを歓迎し、銀、金、香料、上等の油など宝物庫のすべて、武器庫、また、倉庫にある一切のものを彼らに見せた。**④ヒゼキヤ**が彼らに見せなかったものは、宮中ではもとより国中に一つもなかった。

20:14 預言者イザヤは**④ヒゼキヤ**王のところに来て、「あの人々は何を言ったのですか。どこから訪ねて来たのですか」と問うた。**④ヒゼキヤ**は、「彼らは遠い国、バビロンから来ました」と答えた。

20:15 更に、「彼らは王宮で何を見たのですか」と問うと、**④ヒゼキヤ**は、「王宮にあるものは何もかも見ました。倉庫の中のものも見せなかったものは何一つありません」と答えた。

20:16 そこでイザヤは**④ヒゼキヤ**に言った。「主の言葉を聞きなさい。」

20:19 **④ヒゼキヤ**はイザヤに、「あなたの告げる主の言葉はありがたいものです」と答えた。彼は、自分の在世中は平和と安定が続くのではないかと思っていた。

20:20 **④ヒゼキヤ**の他の事績、彼の功績のすべて、貯水池と水道を造って都に水を引いたことは、『ユダの王の歴代誌』に記されている。

20:21 **④ヒゼキヤ**は先祖と共に眠りにつき、その子マナセが**④ヒゼキヤ**に代わって王となった。

▶歴代誌上

03:12 アマツヤ、**①アザルヤ**、**②ヨタム**、

03:13 **③アハズ**、**④ヒゼキヤ**、マナセ、

03:14 アモン、ヨシヤと続く。

05:17 彼らは皆、ユダの王**②ヨタム**とイスラエルの王ヤロブアムの時代に登録された。

▶歴代誌下

26:01 ユダのすべての民は、当時十六歳であった**①ウジヤ**を選び、父アマツヤの代わりに王とした。

26:03 **①ウジヤ**は十六歳で王となり、五十二年間エルサレムで王位にあった。その母は名をエコルヤといい、エルサレムの出身であった。

26:08 アンモン人も**①ウジヤ**に貢ぎ物を献上した。**①ウジヤ**の勢いはこの上もなく増大し、その名声はエジプトに近い地方にまで届いた。

26:09 **①ウジヤ**はエルサレムの角の門、谷の門、城壁の角に塔を築き、補強した。

26:10 彼はまた荒れ野にも多くの塔を築き、井戸を掘った。シェフェラや平地には多数の家畜が飼われ、山地や肥沃な地には農夫やぶどう作りがいた。**①ウジヤ**が農耕を愛したからである。

26:11 **①ウジヤ**は戦いに備えて訓練された軍隊を持っていた。それは書記官エイエル、官吏マアセヤによる名簿に従って部隊に配属され、王の高官ハナンヤの指揮下に置かれていた。

26:14 **①ウジヤ**は全軍のために盾、槍、兜、鎧、弓、投石用の石を準備した。

26:15 彼はまたエルサレムで技術者により考案された装置を造り、塔や城壁の角の上に置いて、矢や大きな石を放てるようにした。**①ウジヤ**は、神の驚くべき助けを得て勢力ある者となり、その名声は遠くにまで及んだ。26:16 ところが、彼は勢力を増すとともに思い上がって墮落し、自分の神、主に背いた。

彼は主の神殿に入り、香の祭壇の上で香をたこうとした。

26:17 祭司**アザルヤ** (→㉔ウジア王、アザルヤ王ではない) は主の勇敢な祭司八十人と共に後から入り、
26:18 ①**ウジャ**王の前に立ちはだかつて言った。「①**ウジャ**よ、あなたは主に香をたくことができない。香をたくのは聖別されたアロンの子孫、祭司である。この聖所から出て行きなさい。あなたは主に背いたのだ。主なる神からそのような榮譽を受ける資格はあなたにはない。」
26:19 香をたこうとして香炉を手にしていた①**ウジャ**は怒り始めたが、祭司たちに怒りをぶつけている間に重い皮膚病がその額に現れた。それは主の神殿の中にいた祭司たちの目の前、香の祭壇の前の出来事だった。
26:20 祭司長**アザルヤ** (→㉔ウジア王、アザルヤ王ではない) と祭司たちは皆彼の方を向いて、その額に重い皮膚病ができているのを認め、直ちに去らせた。彼自身も急いで出て行った。主が彼を打たれたからである。
26:21 ①**ウジャ**王は死ぬ日までその重い皮膚病に悩まされ、重い皮膚病のために隔離された家に住んだ。主の神殿に近づくことを禁じられたからである。その子②**ヨタム**が王宮を取りしきり、国の民を治めた。
26:22 ①**ウジャ**の他の事績は、初期のことも後期のことも、預言者、アモツの子イザヤが書き残している。
26:23 ①**ウジャ**は先祖と共に眠りにつき、その遺体は、重い皮膚病に冒されていたということで、王の墓の近くの野に先祖と共に葬られた。その子②**ヨタム**が①**ウジャ**に代わって王となった。
27:01 ②**ヨタム**は二十五歳で王となり、十六年間エルサレムで王位にあった。その母は名をエルシャといい、ツアドクの娘であった。
27:02 彼は、父①**ウジャ**が行ったように、主の目にかなう正しいことをことごとく行った。ただ主の神殿に入ることはしなかった。民は依然として墮落していた。
27:06 ②**ヨタム**は主なる神の御前をたゆまず歩き続けたので、勢力を増すことができた。
27:07 ②**ヨタム**の他の事績は、そのすべての戦いも、行動も、『イスラエルとユダの列王の書』に記されている。
27:09 ②**ヨタム**は先祖と共に眠りにつき、ダビデの町に葬られた。その子③**アハズ**が②**ヨタム**に代わって王となった。
28:01 ③**アハズ**は二十歳で王となり、十六年間エルサレムで王位にあった。彼は父祖ダビデと異なり、主の目にかなう正しいことを行わなかった。
28:05 それゆえ、その神、主は③**アハズ**をアラムの王の手に渡された。アラム軍は彼を打ち、多くの者を捕虜にしてダマスコに連れ去った。③**アハズ**はイスラエルの王の手にも渡され、大きな損害を被った。
28:16 そのころ、③**アハズ**王は援助を求めてアッシリアの王に使者を送った。
28:19 このように主は、イスラエルの王③**アハズ**のゆえにユダを辱められた。彼がユダを墮落させ、主に甚だしく背いたからである。
28:20 アッシリアの王ティグラト・ピレセルは③**アハズ**を援助するどころか、攻めて来て、彼を苦しめた。
28:21 ③**アハズ**は主の神殿、王宮、高官の家の財産を一部アッシリアの王に差し出したが、何の助けにもならなかった。
28:22 この③**アハズ**王は、災難のさなかでも、なお主に背いた。
28:23 彼は自分を打ったダマスコの神々にいけにえをささげ、「アラムの王の神々は、王を助けている。その神々に、わたしもいけにえをささげよう。そうすればわたしも助けてくれるだろう」と言った。しかし、その神々は③**アハズ**にとっても、すべてのイスラエルにとっても、破滅をもたらすものでしかなかった。
28:24 ③**アハズ**は神殿の祭具を集めて粉々に砕き、主の神殿の扉を閉じる一方、エルサレムのあらゆる街角に祭壇を築いた。
28:26 ③**アハズ**の他の事績と全行動は、初期のことも後期のことも、『ユダとイスラエルの列王の書』に記されている。
28:27 ③**アハズ**は先祖と共に眠りにつき、エルサレムの都に葬られた。しかし、その遺体はイスラエルの

王の墓には入れられなかった。その子**④ヒゼキヤ**が**③アハズ**に代わって王となった。

29:01 **④ヒゼキヤ**は二十五歳で王となり、二十九年間エルサレムで王位にあった。その母は名をアビヤといい、ゼカルヤの娘であった。

29:03 その治世の第一年の第一の月に、**④ヒゼキヤ**は主の神殿の扉を開いて修理し、

29:20 翌朝、**④ヒゼキヤ**王は町の責任者を集めて、主の神殿に上った。

29:27 **④ヒゼキヤ**は祭壇に焼き尽くす献げ物をささげるように命じた。焼き尽くす献げ物をささげ始めると、イスラエルの王ダビデの楽器の伴奏で、主の賛歌とラッパの演奏が始まった。

29:30 **④ヒゼキヤ**王と高官たちが、ダビデと先見者アサフの言葉をもって主を賛美するようにレビ人に命じたので、彼らは主を賛美して喜び祝い、ひざまずいて礼拝した。

29:31 **④ヒゼキヤ**は言った。「今、あなたたちは主に身をささげた。感謝の献げ物を携えて主の神殿に近づけ。」そこで会衆は感謝の献げ物を携え、また進んでささげようとする者は皆、焼き尽くす献げ物を携えて来た。

29:36 **④ヒゼキヤ**とすべての民は神が民のためにしてくださったことを喜び祝った。この事が速やかに行われたからである。

30:01 **④ヒゼキヤ**はすべてのイスラエルとユダに使者を遣わし、またエフライムとマナセには書簡を送り、エルサレムの主の神殿に来てイスラエルの神、主のために過越祭を行うように呼びかけた。

30:18 民の大多数、エフライム、マナセ、イサカル、ゼブルンの多数の者が身を清めていなかった。それにもかかわらず、彼らは記されていることに違反して、過越のいけにえを食べたので、**④ヒゼキヤ**は彼らのために祈って言った。「恵み深い主よ、彼らをお赦してください。」

30:20 主は**④ヒゼキヤ**の祈りを聞き入れ、民をいやされた。

30:22 **④ヒゼキヤ**は、主への奉仕によく通じたすべてのレビ人に励ましの言葉をかけた。彼らは和解の献げ物をささげ、先祖の神に感謝しつつ七日間にわたって、祭りの食事にあずかった。

30:24 ユダの王**④ヒゼキヤ**は雄牛千頭、羊七千匹を会衆に提供し、高官たちも雄牛千頭、羊一万匹を会衆に提供した。そこで多くの祭司が自分を聖別することになった。

31:02 **④ヒゼキヤ**は祭司とレビ人の組分けを行い、その組ごとに、主の陣営の門の中で、祭司とレビ人がそれぞれの任務に従って焼き尽くす献げ物や和解の献げ物をささげ、感謝し、賛美しながら奉仕するように定めた。

31:08 **④ヒゼキヤ**と高官たちはその積み上げを見に来て、主とその民イスラエルをたたえた。

31:09 **④ヒゼキヤ**が祭司とレビ人にその積み上げについて尋ねると、

31:10 ツァドク家の祭司長**アザルヤ**（→**㊦**ウジア王、アザルヤ王ではない）はこう答えた。「主の神殿に献納物の奉納が始まってから私たちは食べ物に不足はなく、むしろたくさん残ってしまうほどです。主はその民を祝福してくださいました。この大量の物が残っています。」

31:11 **④ヒゼキヤ**は主の神殿の中に祭司室を設けるように命じたので、彼らはそうした。

31:20 **④ヒゼキヤ**はユダの全土にこのように行い、自分の神、主の御前に良い事、正しい事、真実な事を行った。

32:01 **④ヒゼキヤ**がこれらの真実な事を行った後、アッシリアの王センナケリブが攻めて来た。彼はユダに侵入し、その砦の町々に対して陣を張り、町々を攻め取ろうとした。

32:02 **④ヒゼキヤ**は、センナケリブが来て、エルサレム攻略を目指しているのを見ると、

32:03 将軍や勇士たちと協議し、町の外にある泉の水をせき止めることにした。彼らは王を支持した。

32:08 敵には人の力しかないが、我々には我々の神、主がいて助けとなり、我々のために戦ってください。」民はユダの王**④ヒゼキヤ**の言葉に力づけられた。

32:11 **④ヒゼキヤ**は、『我々の神、主がアッシリアの王の手から救ってくださる』と言って、お前たちを唆し、飢えと渇きで死なせようとしているのではないか。

32:12 **④ヒゼキヤ**はユダとエルサレムに向かい、『ただ一つの祭壇の前で礼拝し、その上で犠牲を燃やして煙にせよ』と言って、彼の主の聖なる高台と祭壇を取り除いたのではなかったか。

32:20 **④ヒゼキヤ**王と預言者、アモツの子イザヤはこの事のために祈り、天に助けを求めて叫んだ。

32:22 こうして主は、④ヒゼキヤとエルサレムの住民を、アッシリアの王センナケリブおよびあらゆる敵の手から救い、周囲の者たちから彼らを守って安らぎを与えられた。

32:23 多くの人々が主にささげる供え物と、ユダの王④ヒゼキヤにささげる貴重な品々を携えてエルサレムに来た。それ以来、王はあらゆる国の民から仰ぎ見られるようになった。

32:24 そのころ、④ヒゼキヤは病にかかり、死にそうになった。彼が主に祈ったので、主は彼にこたえ、しるしを与えられた。

32:25 しかし、④ヒゼキヤは受けた恩恵にふさわしくこたえず、思い上がり、自分とユダ、エルサレムの上に怒りを招いた。

32:26 ④ヒゼキヤはエルサレムの住民と共に、思い上がりを捨ててへりくだったので、その時代に彼らが主の怒りに襲われることはなかった。

32:27 ④ヒゼキヤは極めて多くの富と誉れに恵まれ、宝物庫を造って金、銀、宝石、香料、盾、その他あらゆる宝物を納め、

32:30 上の方にあるギホンの湧き水をせき止め、ダビデの町の西側に向かって流れ下るようにしたのも、この④ヒゼキヤであった。④ヒゼキヤはそのすべての事業を成し遂げた。

32:32 ④ヒゼキヤの他の事績および敬神の行為の数々は、『預言者、アモツの子イザヤの見た幻』と『ユダとイスラエルの列王の書』に記されている。

32:33 ④ヒゼキヤは先祖と共に眠りにつき、その遺体はダビデ一族の墓のある丘に葬られた。その死にあたってすべてのユダとエルサレムの住民が彼に敬意を表した。その子マナセが④ヒゼキヤに代わって王となった。

▶イザヤ書

01:01 アモツの子イザヤが、ユダとエルサレムについて見た幻。これはユダの王、①ウジャ、②ヨタム、③アハズ、④ヒゼキヤの治世のことである。

06:01 ①ウジャ王が死んだ年 (BC742/740) のことである。わたしは、高く天にある御座に主が座しておられるのを見た。衣の裾は神殿いっぱい広がっていた。

07:01 ユダの王①ウジャの孫であり、②ヨタムの子である③アハズの治世のことである。アラムの王レツィンとレマルヤの子、イスラエルの王ペカが、エルサレムを攻めるため上って来たが、攻撃を仕掛けることはできなかった。07:02 しかし、アラムがエフライムと同盟したという知らせは、ダビデの家に伝えられ、王の心も民の心も、森の木々が風に揺れ動くように動揺した。

07:10 主は更に③アハズに向かって言われた。07:11 「主なるあなたの神に、しるしを求めよ。深く陰府の方に、あるいは高く天の方に。」

07:12 しかし、③アハズは (不信仰にも) 言った。「わたしは (主を/主の救いを) 求めない。主を試すようなことはしない。」7:13 イザヤは言った。「ダビデの家よ聞け。あなたたちは人間に/もどかしい思いをさせるだけでは足りず/わたしの神にも、もどかしい思いをさせるのか。7:14 それゆえ、わたしの主が御自ら/あなたたちにしるしを与えられる。見よ、おとめが身ごもって、男の子を産み/その名をインマヌエル (→神は我々と共にいる:ヘブライ語。この名によって、アハズ王は神がユダの国を守ることを確信する=イザヤ書8:8~10、詩編46:5~12) と呼ぶ。

→しるし=インマヌエル

→死の陰の谷を行くときも/わたしは災いを恐れない。あなたがわたしと共にいてくださる。あなたの鞭、あなたの杖/それがわたしを力づける (詩編23:4)。

→水の中を通るときも、わたしはあなたと共にいる。大河の中を通っても、あなたは押し流されない。火の中を歩いても、焼かれず/炎はあなたに燃えつかない (イザヤ書43:2)。

→王は言った。「だが、わたしには四人の者 (→①シャドラク、②メシャク、③アベド・ネゴ、④神の子) が火の中を自由に歩いているのが見える。そして何の害も受けていない。それに四人目の者は神の子のような姿をしている。」 (ダニエル書3:25)

36:01 ④ヒゼキヤ王の治世第十四年に、アッシリアの王センナケリブが攻め上り、ユダの砦の町をこと

ごとく占領した。

37:01 **④ヒゼキヤ**王はこれを聞くと衣を裂き、粗布を身にまとして主の神殿に行った。

37:14 **④ヒゼキヤ**はこの手紙を使者の手から受け取って読むと、主の神殿に上って行った。**④ヒゼキヤ**はそれを主の前に広げ、

38:01 そのころ、**④ヒゼキヤ**は死の病にかかった。預言者、アモツの子イザヤが訪ねて来て、「主はこう言われる。『あなたは死ぬことになっていて、命はないのだから、家族に遺言をしなさい』」と言った。

38:02 **④ヒゼキヤ**は顔を壁に向けて、主にこう祈った。

38:03 「ああ、主よ、わたしがまことを尽くし、ひたむきな心をもって御前を歩み、御目にかなう善いことを行ってきたことを思い起こしてください。」こう言って、**④ヒゼキヤ**は涙を流して大いに泣いた。

38:09 病気であったが、その病気が治って命を得たユダの王**④ヒゼキヤ**の記した歌、ミクタブ。

38:22 **④ヒゼキヤ**は言った。「わたしが主の神殿に上れることを示すしは何でしょうか。」

39:01 そのころ、バビロンの王、バルアダンの子メロダク・バルアダンが**④ヒゼキヤ**に手紙と贈り物を送って来た。病気であった彼が健康を回復したことを聞いたからである。

39:02 **④ヒゼキヤ**は使者たちを歓迎し、銀、金、香料、上等の油など宝物庫と、武器庫、倉庫にある一切の物を彼らに見せた。**④ヒゼキヤ**が彼らに見せなかったものは、宮中はもとより國中にひとつもなかった。

39:03 預言者イザヤは**④ヒゼキヤ**王のところに来て、「あの人々は何を言ったのですか。どこから訪ねて来たのですか」と問うた。**④ヒゼキヤ**は、「彼らは遠い国、バビロンから来ました」と答えた。

39:04 更に、「彼らは王宮で何を見たのですか」と問うと、**④ヒゼキヤ**は、「王宮にあるものは何もかも見ました。倉庫の中のものも見せなかったものは何一つありません」と答えた。

39:05 そこでイザヤは**④ヒゼキヤ**に言った。「万軍の主の言葉を聞きなさい。

39:08 **④ヒゼキヤ**はイザヤに、「あなたの告げる主の言葉はありがたいものです」と答えた。彼は、自分の在世中は平和と安定が続くと思っていた。

▶ホセア書

01:01 ユダの王、**①ウジャ**、**②ヨタム**、**③アハズ**、**④ヒゼキヤ**の時代、イスラエルの王ヨアシユの子ヤロブアムの時代に、ベエリの子ホセアに臨んだ主の言葉。

▶アモス書

01:01 テコアの牧者の一人であったアモスの言葉。それは、ユダの王**①ウジャ**とイスラエルの王ヨアシユの子ヤロブアムの時代、あの地震の二年前に、イスラエルについて示されたものである。

▶ミカ書

01:01 ユダの王**②ヨタム**、**③アハズ**、**④ヒゼキヤ**の時代に、モレシェトの人ミカに臨んだ主の言葉。それは、彼がサマリアとエルサレムについて幻に見たものである。

▶ゼカリヤ書

140:5 あなたたちはわが山の谷を通過して逃げよ。山あいの谷はアツアルにまで達している。ユダの王**①ウジャ**の時代に／地震を避けて逃れたように逃げるがよい。わが神なる主は、聖なる御使いたちと共に／あなたのもとに来られる。

▶マタイによる福音書

01:08 アサはヨシャファトを、ヨシャファトはヨラムを、ヨラムは**①ウジャ**を、

01:09 **①ウジャ**は**②ヨタム**を、**②ヨタム**は**③アハズ**を、**③アハズ**は**④ヒゼキヤ**を、

【参考】イスラエル分裂王国時代の歴代王

	ユダ王国／ユダ／南王国／首都(主都)エルサレム：年号はすべてBC(紀元前) 左年号XXX-YYY：日本聖書協会()内年号：ウィリアム・オルブライト説	北イスラエル王国／イスラエル／北王国／首都サマリヤ：年号はすべてBC(紀元前) 左年号XXX-YYY：日本聖書協会()内年号：ウィリアム・オルブライト説		
イスラエル分裂王国時代の歴代王	★レハブアム：931-913 (922-915) ←在位期間、以下同じ	ダビデ王朝	★ヤロブアム：931-910 (922-901) ←在位期間、以下同じ	
	★アビヤム(アビヤ)：913-911 (915-913)	ダビデ王朝	★ナダブ：910-909 (901-900) ⇒暗殺	
	☆アサ：911-870 (913-873)	ダビデ王朝	★バシャ：909-886 (900-877)	
	☆ヨシャファト：870-848 (873-849)	ダビデ王朝	★エラ：886-885 (877-876) ⇒家臣ジムリにより暗殺	
	★ヨラム：848-841 (849-842)	ダビデ王朝	★ジムリ：885-7日間 (876-7日間) ⇒焼身自殺	
	★アハズヤ：841 (842) ⇒北イスラエル王国のイエフにより暗殺	ダビデ王朝	★オムリ：885-874 (876-869)	オムリ王朝
	★アタルヤ(女王)：841-835 (842-837) ⇒大祭司ヨヤダにより暗殺	-----	★アハブ：874-853 (869-850) ⇒イスラエル王国随一の暴君	オムリ王朝
	☆ヨアシュ：835-796 (837-800) ⇒配下により暗殺	ダビデ王朝	★アハズヤ：853-852 (850-849)	オムリ王朝
	☆アマツヤ：796-766 (800-783) ⇒暗殺	ダビデ王朝	★ヨラム：852-841 (849-842)	オムリ王朝
	☆ウジヤ(アザルヤ)：781-740 (783-742)	ダビデ王朝	☆イエフ：841-814 (842-815) ⇒イスラエル王国唯一の名君	イエフ王朝
	☆ヨタム：740-736 (742-735)	ダビデ王朝	★ヨアハズ：814-798 (815-801)	イエフ王朝
	★アハズヤ(アハズ)：736-716 (735-715)	ダビデ王朝	★ヨアシュ：798-783 (801-786)	イエフ王朝
	☆ヒゼキヤ：716-687 (715-687)	ダビデ王朝	★ヤロブアム2世：783-743 (786-746) イスラエル王国の絶頂期	イエフ王朝
	★マナセ：687-642 (687-642)	ダビデ王朝	★ゼカルヤ：743.6か月間 (746.6か月間) ⇒家臣シャルムにより暗殺	イエフ王朝
	★アモン：642-640 (642-640) ⇒地の民により暗殺	ダビデ王朝	★シャルム：743.1か月間 (745.1か月間) ⇒ゼカリヤ殺害し王位につく、暗殺	
	☆ヨシヤ：640-609 (640-609)	ダビデ王朝	★メナヘム：743-738 (745-738)	
	★ヨアハズ：609.3か月間 (609.3か月間)	ダビデ王朝	★ベカフヤ：738-737 (738-737) ⇒侍従ベカにより暗殺	
	★ヨヤキム：609-598 (609-598)	ダビデ王朝	★ベカ：737-732 (737-732) ⇒家臣だったホシェアにより暗殺	
	★ヨヤキン：598.3か月間 (598.3か月間)	ダビデ王朝	★ホシェア：732-723 (732-722)	
	★ゼデキヤ：598-587 (598-587) →旧姓：マシヤ(列王記下24：17)	ダビデ王朝	☆：神に従った良い王(善王、名君)／★：悪い王	

【参考】イザヤ

イザヤ(「ヤハウエは救い」、「ヤハウエの救い」という意味)は、預言者の中、最大の人物と言われた。アモツの子(列王記下19：2、20、20：1、歴代誌下26：22、32：20、32、イザヤ1：1、2：1、13：1、20：2、37：2、21、38：1)としてエルサレムで生まれ育ち、王ウジヤの死んだ年、BC742/740年20歳の頃(イザヤ書6：1~13)にユダ王国の首都エルサレムで、約40年にもわたって預言活動をしたイスラエルの代表的な預言者である。伝説によれば、マナセ王時代に殉教した。

イザヤが預言者として活動した約40年間は、三つの大きな出来事が起こった時代だった。

★一つ目の出来事は、シリア・エフライム戦争です。

これは、シリア、エフライムの両国が、強大国アッシリアの侵攻を阻止するために、ユダに同盟を持ちかけたが、ユダがこれを拒否したために起こった戦争だった。これに対して、イザヤは、この二人の王はアッシリアによって退けられる、神ヤハウエへの信頼を保つように、とユダの王アハズに進言した(イザヤ書7：4、9)。ところがアハズは貢物をもってアッシリア王ティグラト・ピレセル(3世)に援助を求め、ピレセルがダマスコを滅ぼすとアハズはアッシリア風の祭壇をエルサレム神殿に造らせた(列王記下16：5~18)。

★二つ目は、その10年後に起こった北イスラエル滅亡(BC722)です。ここでもイザヤは、虚偽と傲慢が支配し、指導者は民を迷わし、社会的弱者が保護されない北イスラエルに神の怒り(アッシリアやエジプトによる攻撃)があると告げた(イザヤ書9：7~10：4)。

★最後は、アッシリア軍によるユダ王国の蹂躪(BC701のエルサレム侵攻、列王記下18：13)です。エルサレムが完全包囲された時には、アッシリアを恐れるな、とイザヤはヒゼキヤ王に伝えた(イザヤ書37：6~7)。大国依存とは軍事力依存に他ならず、人間を頼ることに他ならない。軍事力が幅を利かせる情勢を見据えながらも、アッシリアを恐れるな、エジプトに頼るな、とイザヤは訴えた(イザヤ書10：24)。

国を支えるのは、強力な軍事力ではなく、神への信頼であり、そこにこそ真の力が働き及ぶ、これが預言者イザヤの揺るがぬ信念だった(イザヤ書30：15)。

→まことに、イスラエルの聖なる方／わが主なる神は、こう言われた。「お前たちは、立ち帰って／静かにしているならば救われる。安らかに信頼していることにこそ力がある」と。しかし、お前たちはそれを望まなかった(イザヤ書30：15)。

【参考】 聖書にある「インマヌエル」

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 4 / 聖句等の総数 33250 <インマヌエル>4個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: インマヌエル]
K イザヤ書	7:14 それゆえ、わたしの主が御自ら／あなたたちにするしを与えられる。見よ、おとめが身ごもって、男の子を産み／その名をインマヌエルと呼ぶ。	
K イザヤ書	8:8 ユダにみなぎり、首に達し、溢れ、押し流す。その広げた翼は／インマヌエルよ、あなたの国土を覆い尽くす。」	
K イザヤ書	8:10 戦略を練るがよい、だが、挫折する。決定するがよい、だが、実現することはない。神が我らと共におられる(インマヌエル)のだから。	
S マタイによる福音書	1:23 「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。	

【参考】 イザヤ書にある「恐れるな」「恐れることはない」「恐れてはならない」

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 9 / 聖句等の総数 33250 <恐れるな>9個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: 恐れるな]
K イザヤ書	10:24 それゆえ、万軍の主なる神はこう言われる。「シオンに住むわが民よ、アッシリアを恐れるな。たとえ、エジプトがしたように／彼らがあなたを鞭で打ち、杖を振り上げても。	
K イザヤ書	35:4 心おののく人々に言え。「雄々しくあれ、恐れるな。見よ、あなたたちの神を。敵を打ち、悪に報いる神が来られる。神は来て、あなたたちを救われる。」	
K イザヤ書	40:9 高い山に登れ／良い知らせをシオンに伝える者よ。力を振るって声をあげよ／良い知らせをエルサレムに伝える者よ。声をあげよ、恐れるな／ユダの町々に告げよ。見よ、あなたたちの神	
K イザヤ書	41:13 わたしは主、あなたの神。あなたの右の手を固く取って言う／恐れるな、わたしはあなたを助ける、と。	
K イザヤ書	41:14 あなたを贖う方、イスラエルの聖なる神／主は言われる。恐れるな、虫けらのようなヤコブよ／イスラエルの人々よ、わたしはあなたを助ける。	
K イザヤ書	43:5 恐れるな、わたしはあなたと共にいる。わたしは東からあなたの子孫を連れ帰り／西からあなたを集める。	
K イザヤ書	44:2 あなたを造り、母の胎内に形づくり／あなたを助ける主は、こう言われる。恐れるな、わたしの僕ヤコブよ。わたしの選んだエシユルンよ。	
K イザヤ書	44:8 恐れるな、おびえるな。既にわたしはあなたに聞かせ／告げてきたではないか。あなたたちはわたしの証人ではないか。わたしをおいて神があるうか、岩があるうか。わたしはそれを知らない。	
K イザヤ書	51:7 わたしに聞け／正しさを知り、わたしの教えを心におく民よ。人に嘲られることを恐れるな。ののしられてもおののくな。	
K イザヤ書	54:4 恐れるな、もはや恥を受けることはないから。うろたえるな、もはや辱められることはないから。若いときの恥を忘れよ。やもめのときの屈辱を再び思い出すな。	
K イザヤ書	7:4 彼に言いなさい。落ち着いて、静かにしていなさい。恐れることはない。アラムを率いるレツインとレマルヤの子が激しても、この二つの燃え残ってくすぶる切り株のゆえに心を弱くしてはならない。	
K イザヤ書	8:12 あなたたちはこの民が同盟と呼ぶものを／何一つ同盟と呼んではならない。彼らが恐れるものを、恐れてはならない。その前におののいてはならない。	
K イザヤ書	41:10 恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。	
K イザヤ書	54:14 あなたは恵みの業によって堅く立てられる。虐げる者から遠く離れよ／もはや恐れることはない。破壊する者から遠く離れよ／もはやそれがあなたに近づくことはない。	